

学力向上に向けた取組

函館市立北中学校

1 課題

生徒一人ひとりを大切にする教育の推進
基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着

2 課題解決の具体策

生徒指導の機能を生かした授業づくり
反復学習の充実
問題解決的な学習の充実

3 取組の概要

2カ年計画で進めている「生徒の活動を活性化する組織づくり、学級経営の改善」という本校の研修を、今年度は、学級学年経営の取り組みを生かした授業の改善も視野に入れ、ワークショップ形式を取り入れながら進めていった。

1 ワークショップによる「北中の良さ」と課題」

「素直で人なつこい」「行事に燃えて参加できる」生徒と「フットワークが軽い」「様々な技を生かしている」教員からなる北中ではあるが、生徒は「コミュニケーション能力」「積極性」、教師は「組織力」などといった部分で課題を残す。

2 「メソッド」「スキル」の交流と小集団による授業検討

ふだんの授業で行っている「メソッド」を、3人の先生に模擬授業形式で行ってもらい、興味をひく題材づくりのヒント、教職員間の意見交流やコミュニケーションの深まり、をねらった。高橋教諭における「踊るヘビの工作」、三谷教諭の「ハッチングとグラデーション」、本谷教諭の「電気パン作り」は、どれも「プロの技」がきらりと光る授業であり、受け身がちな生徒を、授業にぐいと引き寄せしかけは、多くの示唆に富んでいた。また、教科指導の「スキル」交流も、年度初めの授業開きの大切さを改めて実感させられるものであった。

3 坂井教諭の特設授業

教員を4つのブロックに分け、それぞれが課題に向かった授業づくりを目指し、数回の指導案検討を経て、ブロックごとの授業を実施した。11月5日には、坂井教諭による特設授業が行われた。昨年度から取り組んでいるQ-Uテストの結果を考慮した小グループを編成しての授業である。ピンゴシートを使ったフォニックスのルール確認や、パソコンによる身近なキャラクターを用いた前時の復習では、楽しみながら意欲的に学ぶ工夫が盛りだくさんであった。また、モデルリーディングからバズリーディングを経て暗唱へとつなげる音読練習や、本文をもとにしたスキットの作成とその暗唱では、グループ内での役割分担や助け合いが教師の机間巡視と相まって効果的に機能し、個に対する支援が充実していた。ほぼ全てが英語で発問される授業形態にも、生徒たちは戸惑うことなく意欲的に取り組んでおり、坂井教諭の確かな実践の積み重ねが実感できた。



坂井教諭の特設授業から

4 その他の教科の実践例(抜粋)

国語 スモールステップとフェーディングを基本とし、「即時確認」と「生徒の実情に応じたフレキシブルな展開」を心がけ、生徒の意欲を喚起すると同時に達成感を味わわせる品詞の識別学習。

社会 基礎・基本を定着させるため、予習としての教科書読み - 授業 - 小テストと反復学習による復習を一つのサイクルとして意識させ、習慣化させるための実践。

数学 基礎・基本の定着を目指し、計算式をブロックダイアグラムの要素を取り入れた説明、生徒との対話形式による解答、類似問題の徹底反復と小テストの実践。

4 成果と課題

教材や取組方法などの工夫によって、生徒は理解度が高まり、意欲的に学習していた。また、ワークショップや「メソッド」「スキル」の交流に加え、小集団による授業検討で教師側の相互理解が深まった。

「基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着」のために、新学習指導要領完全実施をにらんだ教育課程の計画的な編成と合わせ、学習習慣の確立に向け、生徒はもちろん、家庭に対するより一層の啓発が必要である。